（別紙4）　　平成　27　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2994900047		
法人名	社会福祉法人　室生会		
事業所名	グループホーム愛		
所在地	奈良県宇陀市室生大野1685－2		
自己評価作成日	平成27年2月5日	評価結果市町村受理日	平成28年4月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/29/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会
所在地	奈良県橿原市大久保町302－1　奈良県市町村会館内
訪問調査日	平成28年3月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご家族とご利用者の要望に出来るだけ沿えるよう、柔軟なサービスを提供できるようにしています。面会、外泊、外出は自由にして頂いています。またお庭にて野菜作りや、ガーデニングをおこなうことができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

特養ホーム等大型施設を中心とした法人事業のこれまでの取り組みの中で、グループホームの必要性を認識し、開設されたホームです。「その人らしさをを尊重した支援等」を理念のポイントとし、本人が楽しく安心した日常生活を送るためのケアとはどのような暮らしかを、職員一同は追求されています。
磨崖仏としだれ桜で有名な大野寺にほど近い古い街並みの集落に位置し、建物は、各所にバリアフリーが施され、温もりが感じられるよう建物の内部は木が多用されています。居間は広く、適度に光が差し込み明るく、.掃除が行き届き清潔感にあふれ、対面式キッチンやその時々の作品の飾りつけ等、生活感や五感刺激、季節感及び利用者の動線にも配慮した設えにし、浴室には、リフトを設置して利用者の身体機能の低下にも配慮する等、居心地よく過せるよう工夫されています。排泄の自立支援等適切な見守りの下、利用者の生きる意欲や自信の回復、食や睡眠等の身体機能の向上につながるよう取り組み、認知症対応の地域に根差した施設を目指し支援されているホームです。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念を設定し、理念に沿って介助、検討することとしている。	理念を共有し確認されていますが、認知症になっても自分らしく有する力を発揮しながら、地域で暮らし続けること等、人として当たり前な生活への支援である地域密着型サービスの意義と理念の理解が課題です。	ホームが地域密着型サービスを提供する事業所として果たす役割と理念について、管理者やすべての職員で話し合い理解を深める取り組みを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校より22名の訪問学習を受け入れ、交流した。また、秋の地域のお祭りでお神輿の周回をして頂いた。	地域の住民が、農作物の差し入れや話し相手に来られる等、日常的に交流されています。小学生とも交流されています。利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、より一層自治会への働きかけに取り組みたいとされています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用相談や見学は随時受け付けているが、情報の発信する機会が少なく、市の地域事務所にパンフレットを置くなどしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政や地域包括センター、居宅介護支援事業所、家人との意見交換はあるが、地域の代表者との話し合いが少ない。	会議は、家族、市職員、地域包括職員、介護相談員、民生委員等の参加の下、本年は1回開催され、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いが行われています。今後は概ね2月に1回開催するよう検討されています。	運営推進会議は、外部の人々の目を通してホームの取り組み内容や具体的な改善課題を話し合ったり、地域の理解と支援を得るための貴重な機会ですから、今後は、地域住民の参加への働きかけを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	GHでの受入や、介護保険に関する問い合わせなど随時おこなっている。	利用者の受入等の機会に市職員と連絡を取られています。行政は、介護保険の保険者であり、地域福祉の推進役として最前線の立場にあることから、今後はより一層、担当者への積極的な情報提供と共有を図るよう取り組みたいとされています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は原則禁止している。	全ての職員は、身体拘束の弊害を正しく理解し、身体拘束のないケアに取り組まれています。	危険や防犯上の理由から、日中玄関を施錠されていますが、その弊害を認識し、本人や家族等と話し合い、鍵をかけずに安全に過ごせる工夫を重ねる取り組みを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	入浴時に身体の確認をおこない、不自然なあざなどないか確認をしている。また虐待に関する教育をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターや行政の勉強会に参加し、利用について家人と相談できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護保険改定や、消費税増税などによる料金の変更、サービスの変更について、そのつど説明を行って、文書と捺印によって同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン作成時に、下書きを家人に提示し、要望をうかがって修正のち交付するようにしている。また苦情相談窓口を設けている。	介護相談員の受け入れや面会時等で常に問いかけ、何でも言ってもらえる雰囲気づくりに留意し、出された意見・要望は、ミーティングで話し合い、反映されています。今後は、外部者へ表せる機会や場があることを繰り返し説明することを検討されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	引継ぎやミーティング、又は業務内での意見交換をおこない、上位者に伝え、決定事項は会議や、引継ぎを通して、周知するようにしている。	ミーティング等を開催し、意見交換が行なわれています。今後は、利用者と職員の馴染みの関係づくりに配慮し、職員が交代する場合は、引継ぎ期間を十分にとりスムーズに移行できるよう工夫することを検討されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各種研修への参加を業務としておこなっており、資格に応じて手当てを支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規職員には初回研修（座学）をおこなっている。キャリアプランの設定を検討している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宇陀市介護相談員三者交流会に参加し、介護相談員、各事業者、行政の間で意見交換をおこなった。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	以前の生活環境を考慮しながら、入居時に本人の希望をうかがっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人とは別に、家人からの要望をうかがっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの内容を説明し、ご利用者に適切なサービスかどうか、家人と相談している。また状態によって他の福祉サービスなど紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を通し、ご利用者と職員交えて、掃除、洗濯、料理をおこなっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者には家人との外出、外泊と面会を自由にして頂いている。また、ご本人についての状態の連絡相談をおこなっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外部でのイベントや交流に参加できるように努めている。また以前住まわれていた近隣の方の訪問も自由にして頂いている。	地域に暮らす馴染みの知人・友人等との交流や、昔から利用している理美容院に行き続けられるよう支援されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	イベントやレク、日常生活において、共同作業ができるような機会を設けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関に入院された場合、一端退去されても、また再入居できるように、対応している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に希望をうかがうと共に、日常生活において、暮らしやすく生活が出来るように、本人からヒアリングをおこなっている。	利用者の思いは、日々の行動や表情から汲み取り把握されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、家族や関連機関からのヒアリングを通して、それまでの暮らしや生活環境についての確認をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活について、ケース記録や日報、引継ぎを通し、ご利用者の日常の状態観察をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース記録と日報にて情報収集し、ミーティングや、引継ぎで意見集約して、ケアプランに反映し、周知している。	本人や家族の意向を確認し、関係者の意見を参考に、職員間でカンファレンスを行い介護計画を作成されています。状態に変化がある時はもちろん、毎月カンファレンスを行う他、6ヶ月を目途に見直し、現状に即した介護計画を作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	引継ぎ時の申し送りにて、情報を共有し、会議やケース記録からケアプランを見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者やご家族の要望に合わせて、受診や訪問リハビリの提案などおこない、調整している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のかかりつけの医療機関、理美容店の利用、個人商店での買い物などおこなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者ごとに、適切なかかりつけ医を設定し、必要に応じて、かかりつけ医以外でも受診できるように取りはかっている。	本人や家族が希望するかかりつけ医とし、基本的には、家族同行の受診となっていますが、状況に応じて職員も同行されています。普段の様子等の情報を伝え、受診結果についても共有されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体の変調などあれば、適切な医療機関にて相談連絡するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーなど提出し、情報の共有に努めている。また定期的に医療機関へ状態のヒアリングをおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家人からのヒアリングとご本人の状況から、必要なケアを検討し、重度化した場合の対応について説明相談している。	契約時や状態変化時等、早い段階から本人や家族と話し合い、ホームで支援できる範囲を十分説明しながら方針を共有し、本人や家族とかかりつけ医等の関係者と連携して支援されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応を手順化し周知している。また、ヒアリハットや事故報告書を運用している。救急対応マニュアルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災消防計画書に基づき、災害時の避難場所と避難経路の確認をしており、避難訓練を実施している。定期的に防火見回りをおこなっている。	消防署の協力を得て、避難訓練を年2回行われています。近くの職員に連絡し対応する体制とされており、地域の協力体制の構築は課題となっています。食料等の備蓄もなされています。	夜間を想定した訓練の実施と、職員だけでの誘導には限界がありますので、地域住民等との連携を図り協力体制を築いていく取り組みが期待されます。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の性格を考慮して、適切な声かけや対応をするように努めている。	人格の尊重に配慮した言葉掛けや、援助が必要な時も、さり気ないケアを心がけて対応されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意志の確認をおこない、オープン、クローズクエッションで選択肢を提示できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活が、ご利用者の負担にならないよう、各自の様子に合わせて生活できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	紛失してしまう方も、化粧道具をあずかることで、必要に応じて整容して頂いている。また理容店にて、毛染め、パーマなど自由にして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	各自のご利用者のできることに合わせて、食事の準備を手伝って頂いている。	職員は弁当を持参し、サポートに徹し休憩時間に昼食を摂られています。一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付ける等の支援は課題となっています。	ホームでの食事は栄養摂取だけでなく、利用者と職員が一緒に楽しく食す支援が求められ、協働作業での利用者の力の発揮や楽しく食べることを目指し、調理や弁当のあり方について検討されるよう望みます。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、、水分量のチェックをおこない、月ごとに体重測定をしている。脱水に至らないよう日中夜間に、個別に配茶をおこなっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけにて、歯磨きを促すと共に、困難な方は洗口液など利用して清潔を保つようにしている。また義歯の洗浄を毎日している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者の状態に合わせて、リハパンやポータ利用をし、排泄パターンの把握に努めている。また原則トイレ利用を支援している。	排泄チェック表に記録し、時間を見計らって誘導する等、排泄パターンに応じて自立に向けた支援をされています。トイレでの排泄を大切にしながら、リハビリパンツ類も本人に合わせて検討されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々排泄のチェックをしており、体操や運動を奨励している。また頓服薬や浣腸などで定期的な排便に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	冬は「ゆず」など入れたり、木を浮かべたりして香りを楽しんで頂いたりした。またお湯を一人で交換している。入浴に楽しみを付加できるように検討している。	入浴日や時間帯は決められています。入浴行為は、利用者の習慣や希望に多様性があり、それを活かすことが、本人や家族の安心と満足、体調の改善等につながることから、今後は、こうしたことに配慮した支援に向けての取り組みを検討されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のご利用者ごとに、不安感を取り除くように声かけし、入眠にむけて静かで落ち着いた環境を整えるように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々人の薬を配薬表でチェックし、変更があった場合は、引継ぎにて周知している。また症状に応じて医療機関に薬の変更を相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活で、ご利用者ごとに楽しみが持てるように、掃除、洗濯、読書、手芸、音楽、カラオケなど個人で望まれるものを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出や散歩など、気分転換できるように対応している。また、家族との外出も奨励している。外出される際は、お薬、パットなど必要なものを用意している。	利用者の希望に沿って、戸外のベンチでの日光浴を始め、散歩、買い物等日常的な外出の他、家族の協力を得て、外食や墓参り等にも出かけられるよう支援されています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	条件付でご家族の了承のもと、希望されるご利用者には小額のお金を、自分で管理いただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望があれば、電話や手紙を自由にして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度湿度の管理に努め、場所によって温度が偏らないように調整している。天窓がまぶしかったため天幕を設置した。	温もりが感じられるよう建物の内部は木が多用されています。リビングは、適度に光が差し込み明るく、掃除が行き届き清潔感にあふれ、対面式キッチン、季節に応じてその時々の作品の飾りつけ等生活感や五感刺激及び季節感にも配慮されています。浴室には、リフトを設置し利用者の身体機能の低下にも配慮する等、居心地よく過せるよう工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやイスの配置など検討し、ご利用者同士の交流がしやすいように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご自宅で慣れ親しんだ日用品を持ち込んでいただくようにしている。また家具類の配置なども使いやすい様、自由にしていただいている。	タンス、仏壇、好みの飾りつけ、本棚、椅子等の思い出の品々が持ち込まれ、それぞれの利用者が居心地良く過ごせるよう配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活を通して、できることの範囲をひろげつつ、IADLをおこなえるように支援している。		